

平成24年度 事務事業評価シート

※平成23年度に実施した事業を評価しています

事務事業名称	美術館展示事業					継続		
コード	28	-	23	-	01	00	予算事業名	美術館運営管理
担当部署	文化スポーツ部	美術館			予算事業コード	会計 02 款 01 項 18 目 01		

1. 事業の位置付けと関連計画等

第三次川越市総合計画後期基本計画における位置付け 位置付けなしの場合 法令による実施義務 義務ではない

基本目標(章)	2章 学びと交流を深め、豊かな心と文化をはぐくむまち	根拠となる法令、条例等	地方自治法、文化芸術振興基本法、川越市立美術館条例
方向性(節)	3節 歴史文化の継承と新しい市民文化の創造	個別計画等の名称	なし
施策	1 芸術文化活動の充実		
細施策	3 芸術文化鑑賞機会の充実		

2. 事業の目的と概要

事業の目的 (誰・何を対象に、何のために実施するのか)	来館者を対象に、優れた作品等を身近な場所で鑑賞することにより、美術への理解を促すとともに市民文化の振興及び向上に寄与する。
事業の概要 (活動内容、実施手段・方法など)	美術品の収集、調査・研究並びに展示会の企画・構成を職員(学芸員)が行う。

3. 実施にかかるコストと実績

(単位:千円)

		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
予算額		78,108	81,949	72,731	78,223	74,271	
事業費	A	76,714	77,512	69,408	73,324	74,271	72,000
	B	28,368	27,822	19,828	23,902	24,420	24,420
総コスト(C=A+B)		105,082	105,334	89,236	97,226	98,691	96,420
正規職員(1年間の従事人数)		3.80人	3.70人	2.58人	3.22人	3.30人	3.30人
臨時職員(1年間の従事人数)		0.27人	0.48人	0.80人	0.08人	0.00人	0.00人
国県支出金	D	0	0	0	1,248	0	0
その他特定財源	E	30,291	33,721	33,551	37,971	41,707	12,000
市の財政負担(=C-D-E)		74,791	71,613	55,685	58,007	56,984	84,420

※24年度、25年度の事業費、人件費は見込額
※臨時職員の給与も、人件費に含みます。

4. 成果指標・活動指標による分析

成果	中心指標	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	指標の定義
成果	常設展観覧者数	人	48,875	42,333	35,323	36,044	年間観覧者数
成果	特別展観覧者数	人	35,482	26,794	21,553	28,110	年間観覧者数
成果	常設展開催日数	日	297	295	298	300	年間開催日数
成果	特別展開催日数	日	190	197	177	173	年間開催日数
中心指標の考え方		本事業は、成果指標を中心に評価する。					
指標に基づく評価		観覧者数、開催日数とも、大きく変動することなく推移している。					

5. 事業の実施を通じた分析・評価

(1) 現在の課題と状況	効率性に課題
今年、開館10周年を迎える美術館では、つねに広く市民に親しまれる展示会を心がけ、市立美術館として地域性を生かした企画で川越の文化を発信してきたが、まだまだ当館の認知度・知名度が高いとは言えない状況であり、今後多様なPRを積極的に実施し、知名度の向上に努める必要がある。また、これまでの特別展観覧者の動向も踏まえ、特別展・企画展を開催し、観覧者を増やし、収入の確保を図る効果的・効率的な施設運営に努める。	
(2) 比較参考値(他市での類似事業の例など)	
平成12年に開館したうらわ美術館では、年間 企画展(特別展)を4本、コレクションによるテーマ展を3本開催している。また、「本をめぐるアート」作品を収集のひとつの柱として、アーティストによって制作された本や、本をめぐる魅力あふれる国内外の美術作品を収集している。	
(3) 事業を廃止・縮小したときの影響	
廃止することによって、公立美術館としての役割が失われ、その存在意義が問われる。また、縮小することによって、来館者数が大幅に減少することが想定される。	
(4) 所属長自己評価(今後の方向性)	継続
厳しい財政状況のなか、22年度比で入館者数を伸ばすことができた。今後も美術ファンだけでなく、一般の方も気軽に来館できるような展示事業を展開して行く。	

○各指標の目標値

各指標の目標値	成果指標と活動指標		単位	24年度目標値	将来的な目標	
					年度	目標値
成果	常設展	観覧者数	人	40,000	30	50,000
成果	特別展	観覧者数	人	35,000	30	40,000
成果	常設展	開催日数	日	297	25～	295
成果	特別展	開催日数	日	168	25～	180

○事業費の内訳

単位:千円

	22年度(決算額)	23年度(決算額)	24年度(当初予算額)
非常勤職員報酬(協議会)	72	72	86
作業員賃金(植栽剪定)	127	124	160
報償費(展示借用等謝金)	1,068	897	900
旅費(集荷返却等)	349	451	430
消耗品費(事務用含む)	668	633	860
燃料費(非常用電源燃料)	0	0	7
印刷製本費	867	955	370
光熱水費	8,246	8,115	8,452
修繕料	327	1,146	1,000
通信運搬費	443	335	410
手数料(常設展示替)	444	614	564
筆耕翻訳料(キャプション点訳)	12	12	12
保険料(展示作品)	462	265	620
業務委託料(展覧会実施)	37,183	40,569	44,000
施設・備品委託料(維持管理)	14,319	13,827	15,276
使用料(著作権使用料ほか)	15	1,313	50
備品購入費	229	3,922	1,000
負担金	4,577	74	74
合計	69,408	73,324	74,271

—過去5年間の常設展入館者数—

年度	回数			常設展観覧者	開催日数	1日平均
	常設展 相原展	タッチアート コーナー	特集展			
19	4	4	1	43,887	298	233
20	4	4	1	48,875	297	284
21	4	3		42,333	295	234
22	4	4		35,323	298	191
23	4	3		36,044	300	214
合計	20	18	2	206,462		

—収支状況—

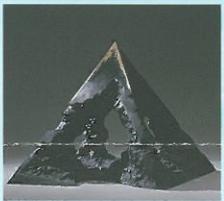
年度	常設展経費	常設展観覧料
19	19,598,909	1,899,030
20	18,677,518	1,918,040
21	19,064,132	1,721,010
22	17,469,400	1,284,340
23	14,635,094	1,313,810
合計	89,445,053	8,136,230

—過去5年間の特別展入館者数—

年度	回数	特別展入館者	開催日数	1日平均	総入館者数
19	3	25,621	139	184	104,563
20	4	35,482	190	187	127,793
21	4	26,734	197	136	113,068
22	4	21,553	177	122	87,087
23	4	28,110	173	163	96,046
合計	19	137,500			528,557

—収支状況—

年度	特別展経費	特別展収入
19	24,839,522	14,941,690
20	22,702,944	7,845,920
21	24,335,561	8,631,690
22	23,284,560	9,703,108
23	23,715,328	9,323,720
合計	118,877,915	50,446,128、

タッチアート コーナー	常設展示室 + 相原求一朗記念室	2011.4 S 2012.3
3月30日(水)	3月30日(水)	4
鈴木英明展	第1期	
	川越の美術 + 相原求一朗の 油彩画など	5
《ときどき雨滴》2006年		
6月19日(日)	6月19日(日)	6
6月28日(火)	6月28日(火)	
特別展 「金沢健一展」と リンク!	第2期 現代美術を みる + 相原求一朗の 油彩画など	7
9月25日(日)	9月25日(日)	
9月28日(水)	9月28日(水)	8
収蔵彫刻ほか	第3期 展覧会 出品作の美 + 相原求一朗の 油彩画など	
		9
関根伸夫 《空相・形骸化された ピラミッド》1976年		
12月24日(土)	12月24日(土)	10
1月5日(木)	1月5日(木)	
蛸名優子展 もじ・ことば・ほん	第4期 田中屋 コレクション + 相原求一朗の 油彩画など	11
		
《Translation - NL》2009年		12
3月25日(日)	3月25日(日)	
		1
		2
		3

企画展示室

※特別展の入館料についてはお問

第37回川越美術協会展(観覧無料)

4月12日(火)~17日(日)

特別展 広重と北斎の東海道五十三次と浮世絵名品展

歌麿・写楽から幕末バラエティーまで

4月23日(土)~6月12日(日)

江戸時代に花開いた庶民文化である浮世絵の世界を紹介します。第1部は、歌川広重の代表作《東海道五拾三次》(保永堂版)全55枚を中心に、葛飾北斎の作品などと比較しながら、東海道の旅に思いを馳せます。第2部は、喜多川歌麿らによる美人画、東洲斎写楽の役者絵など、浮世絵黄金期にあたる18世紀後半の名品をはじめ、庶民の娯楽であった浮世絵の多様な作品をご鑑賞いただけます。



歌川広重
《東海道五拾三次之内 庄野》
保永堂版

特別展 〈川越の美術家たち〉

金沢健一展 -出発点としての鉄 1982-2011-

7月30日(土)~9月25日(日)

川越市内にアトリエを構える彫刻家・金沢健一(1956-)は、鉄板という素材と真摯に向き合い、幾何学的な美しさを追求した作風を特徴とする一方、音楽やダンスなどからインスピレーションを受けたパフォーマンス性豊かな作品も手がける作家です。本展では初期から現在に至るまでの立体作品を展示し、約30年にわたる制作活動の軌跡を辿ります。会期中は作家によるワークショップやパフォーマンスが行われます。



金沢健一
《ある思惟の為の7と1の構成》
1992年

第60回記念川越市美術展覧会(観覧無料)

第1期 日本画・書・写真 10月19日(水)~23日(日) (予定)

第2期 洋画・彫塑・工芸 10月26日(水)~30日(日) (予定)

特別展 ミロ展

11月5日(土)~12月11日(日)

バルセロナで生まれたスペインを代表する芸術家、ジョアン・ミロ(1893-1983)。故郷カタルーニャ地方の光あふれる風土にこだわり、太陽、月、星、鳥、女などの要素を、鮮やかな色合いと温かみのある形で表現し、詩的で独自の世界をつくりだしました。本展はミロが最初に手がけた《一羽の小さなカササギがいた》を含む、初期から晩年までの版画作品を一室に展示します。



ジョアン・ミロ
《反逆者》1967年
© Successió Miró-Adagp.Paris&SPDA.Tokyo.2011

特別展 昭和モダン -藤島武二と新制作初期会員たち-

1月28日(土)~3月20日(火・祝)

1936年、猪熊弦一郎、小磯良平、佐藤敬、脇田和ら新進の芸術家9名は「反アカデミックの芸術精神」を掲げ、新制作派協会(現新制作協会)を結成しました。彼らの立場に同調した大家・藤島武二の賛助出品を得た第1回展以降、野田英夫、荻須高德、三岸節子ら、幾多の画家たちが加わり、同協会は優れた作家たちの活躍の場となって今日に至っています。本展では、同協会創立75周年を記念し、初期会員を中心に時代とのかかわりを展覧します。



藤島武二《大洗海岸》1931年
大分市美術館蔵

企画展示室

タッチアート コーナー	常設展示室 + 相原求一朗記念室	2010.4 ~ 2011.3
旅するオブジェ	3月31日(水)	4
4月25日(日)	第1期	5
4月27日(火)	花と女 + 相原求一朗の 油彩画など	
佐藤忠良が描く 絵本の展示	6月6日(日)	6
6月8日(火)	6月20日(日)	
館蔵 橋本次郎	6月29日(火)	7
	現代美術 + 相原求一朗の 油彩画など	8
《踊り》1972年(昭和47)	9月26日(日)	
9月26日(日)	9月26日(日)	9
9月28日(火)	9月28日(火)	10
岩間 弘 展	第3期	
	下絵と本画 + 相原求一朗の 油彩画など	11
《再生の鳥》 2005年(平成17)	12月24日(金)	
12月24日(金)	12月24日(金)	12
1月5日(水)	1月5日(水)	1
服部 俊弘 ひかりの発芽	第4期	
	小茂田青樹 + 相原求一朗の 油彩画など	2
《ひかりの発芽》 2008年(平成20)	3月27日(日)	
3月27日(日)	3月27日(日)	3

第36回川越美術協会展 4月1日(木)~11日(日)

特別展 宮城県美術館 佐藤忠良記念館所蔵
佐藤忠良展

4月17日(土)~6月6日(日)

佐藤忠良(1912-)は、戦後日本の具象彫刻の展開のなかで中心となって活躍してきた作家であり、《群馬の人》(1952年)や《帽子・夏》(1972年)など、わが国の彫刻史に残る作品を制作してきました。身近な人物をモデルにした生命感にみちた頭像、清新な女性像、純粹無垢な子供像、愛すべき動物たちなど、彼の初期から現在にいたる彫刻作品約50点と素描をあわせて展示します。平成22年度市町村立美術館活性化事業 第11回共同巡回展。



佐藤忠良《このはずく》
1970年(昭和45)

特別展 志田コレクション **竹久夢二展**

7月3日(土)~8月22日(日)

大正浪漫の代表的画家・竹久夢二(1884-1934)は、当時ますます発展してきた印刷技術を背景に、本の装丁・挿絵・絵葉書・紙小物などに自らのデザイン感覚を発揮し、人気画家となりました。日本有数の夢二コレクションとして知られる静岡市所蔵の志田コレクションから、白眉である直筆日記をはじめ肉筆画・版画・自著装丁本など約160点を一堂に公開します。



竹久夢二《草に憩う女》20世紀(大正初期頃)
静岡市蔵

特別展 **日本近代洋画への道**

8月28日(土)~10月24日(日)

江戸から明治への移り変わる時代、洋画が盛大に流入し、油彩の技法や西洋画の写実的な表現方法が日本にもたらされました。笠間日動美術館の初期洋画の優れたコレクションである「山岡コレクション」を中心に、日本洋画の父といわれる高橋由一をはじめ、新しい画法を身につけようとした青木繁、岡田三郎助、黒田清輝、藤島武二など、日本洋画の草創期に活躍した名だたる画家たちの秀作を展示します。



高橋由一《鮭図》1879-80年(明治12-13)
笠間日動美術館蔵

第59回川越市美術展

第1期 洋画・彫塑・工芸 11月17日(水)~21日(日)
第2期 日本画・書・写真 11月24日(水)~28日(日)

特別展 **木版画家・内田静馬** 素朴美へのまなざし

1月29日(土)~3月13日(日)

桶川市に生まれ、川越ともゆかりの深い版画家・内田静馬(1906-2000)。芸術表現としての版画が社会的地位を得た昭和初期から版画界で活躍し、一方で地元での版画普及にも力を注いだ作家の、永年にわたる画業をご紹介します。木版とその伝統的技法に敬意を払い、身近な風景や民画などに素朴な美しさを見出した作品の数々をご覧ください。



内田静馬《川越八景 時鳴鐘》
当館蔵

特別展

21年度

小江戸で出会うアート
川越市立美術館コレクション展
平成21年4月25日(土) - 6月14日(日)

長澤英俊展 オーロラの向かう所
平成21年7月18日(土) - 9月23日(水・祝)

こどものとも 絵本原画展
平成21年10月31日(土) - 12月20日(日)

色彩の詩人 脇田和
平成22年1月16日(土) - 3月14日(日)

展覧会等

第4回「川越を描くビエンナーレ」2009 平成21年6月26日(金) - 7月5日(日)

四季の移ろいととも、新旧が調和する川越を描く絵画公募展。

第58回川越市美術展

平成21年10月14日(水) - 18日(日)：第1期 日本画・書・写真
平成21年10月21日(水) - 25日(日)：第2期 洋画・彫塑・工芸

INFORMATION

川越市立美術館が郷土ゆかりの作家を中心に収集した作品は現在1,100点をこえます。そのコレクションの中から、橋本雅邦、小茂田青樹など輝かしい足跡を残した日本画家の作品のほか、油彩画、彫刻、版画等、幅広いジャンルにわたる近現代美術の秀作を展示します。

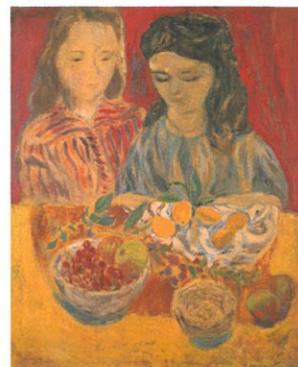
イタリアのミラノを拠点に世界的に活躍する彫刻家・長澤英俊の待望の国内展です。抽象的な彫刻は緻密に計算され、余分な部分をそぎ落とした本質を感じる作品ばかりです。長澤は川越にゆかりが深く、里帰り展ともなる本展は、埼玉県立近代美術館と同時に開催します。くれぐれもお見逃しなく。

1956年に創刊した福音館書店の月刊絵本誌「こどものとも」バックナンバーより、1960年代から90年までに刊行され、現在もロングセラーを続けている10作品の原画を展示します。会場には、絵本の全場面の原画を並べ、さらに場面ごとに詞(文)のパネルを添えます。

子どもや鳥、花といった身近な存在に温かい眼差しを注ぎ、一貫して愛する世界を描いた洋画家・脇田和(1908 - 2005)の個展。貴重なドイツ留学時代の作品を含む初期から晩年までの油彩画、素描、版画などを展示し、新制作協会を中心に活躍した80年にも及ぶ画業を振り返ります。



長澤英俊《Libellula(トンボ)》1999



脇田和《二人》1942 脇田美術館蔵

INFORMATION

常設展

INFORMATION

常設展示室

第1期 寄託作品から色の体温を感じよう 平成21年4月1日(水) - 6月19日(金)

小特集として、今までに寄託を受けた作品の中から、色をテーマに構成し、油彩画、版画などを展示します。川越在住の彫刻家・田中毅や新谷一郎の彫刻作品も合わせて紹介します。

第2期 版画のたのしみ 平成21年6月26日(金) - 10月4日(日)

所蔵・寄託作品の中から、木版画、銅版画、リトグラフなど、さまざまな版画技法の作品を展示します。

第3期 秋に日本画を味わう 平成21年10月7日(水) - 12月23日(水・祝)

橋本雅邦や小茂田青樹の作品など、川越ゆかりの作家の日本画を中心に展示します。会期中展示替えをします。

第4期 相原求一郎の素描 平成22年1月5日(火) - 3月28日(日)

相原求一郎(1918 - 99)が鉛筆やパステルなどで描いた素描類を、彼の油彩画とともに陳列します。

相原求一郎記念室

相原求一郎が描く北海道やフランス北部の風景画などを紹介(第1期~第3期)。川越市の友好都市・北海道中札内村にある相原求一郎美術館が所蔵する、相原晩年の代表作《北の十名山》を公開予定[第4期]。



小茂田青樹《田園風景》1926頃



相原求一郎《白い建物と舟》1972

表紙 齋藤研《旅》1998 (部分)

タッチアート INFORMATION

■ニューギニア 生活の中から生まれた美

鶴ヶ島市所蔵のニューギニア民族造形美術品の中から、仮面、楽器、木枕、楯などを展示。日常生活で生み出された素晴らしい造形美をご堪能ください。



長老の木枕

■平井一嘉展

彫刻家・平井一嘉(1958 -)は、川越を拠点に石の彫刻を制作しています。具象的な優しさあふれる作品をご鑑賞ください。手袋着用で作品に触れて鑑賞できます。

■「こどものとも 絵本原画展」とリンク!

特別展「こどものとも 絵本原画展」にあわせ、実際に絵本を手にとり楽しむコーナーとなります。

■旅するオブジェ

《遊具性》をテーマにした作品の制作とワークショップ活動を続けるアーティスト・ヒサヨシ。鉄製の巨大な輪や、形状自在なオブジェによって「あそび」の空間を作り出します。